

## ▶ 第22回日本臨床内科医学会

# IT導入で変わる地域医療連携

電子カルテ導入やネット活用が広がるなか、地域医療連携や医事会計のシステムが様変わりしつつある。長崎市で開かれた第22回日本臨床内科医学会(会長=長崎県臨床内科医会・迫龍二会長／はざま神経内科・内科医院院長)のシンポジウム「ITと医療」(座長=長崎県臨床内科医会・原田知行理事, 高村邦彦理事)では、メーリングリストを活用し、在宅での看取りをグループ診療で支える長崎在宅Dr.ネット、電子カルテの閲覧サービスを提供する「あじさいネット」の活動が注目を集めた。また、2011年に義務化されるレセプトオンライン請求のメリット・デメリットが議論された。

## 一両日中に主治医を決定

長崎市近郊で医師の相互協力による在宅医療の受け皿となる組織として2003年、NPO長崎在宅Dr.ネットが設立されてから5年。グループ診療とメーリングリスト(ML)の活用を柱とする活動の実際について、長崎在宅Dr.ネット事務局長を務める白髭内科医院の白髭豊院長が発表。今年2月までに175例の主治医紹介の依頼を受け、平均0.81日で主治医が決定しており、在宅緩和ケアの普及などへの効果が現れているという。

### 頑張らない在宅ケアを目指す

NPO長崎在宅Dr.ネットは、開業医が外来診療しながら、大きな負担感なく訪問診療ができるシステムづくりを目指し、①24時間・365日対応可能②電子メール(ML)による連携可能の2つを参加条件とし、主治医を複数の医師がバックアップするグループ診療体制を構築。2008年4月現在、訪問診療に対応する連携医(主治医、副主治医)65人、眼科、皮膚科などの協力医37人、病診連携に携わる病院医師36人、総計138人がメンバーとして活動している。

事業内容は、退院後に在宅療養に移行する患者の主治医が見つからない場合に、登録メンバーのなかから主治医、副主治医を紹介する。事務局が依頼を受けた患者情報を市内5地区に配置したコーディネーター医師に伝達。コーディネーター医師は患者個人が特定されないよう配慮して疾患、居住地などの情報をMLに提示し、手上げ方式で主治医、副主治医を募り決定する。今年2月までに175例の依頼があり、その8割以上は一両日中に主治医が決定した。また、追跡できた

154例中116例が死亡しており、うち在宅死が48例と約4割を占めている。

2007年春からは、がん診療連携拠点病院の緩和ケアカンファレンスにメンバーが参加し、在宅移行を検討中の患者情報をMLで報告するようになった。2008年からは地域連携に熱心な拠点病院の医師らがメンバーに加わり、ML上で直接在宅主治医を募るようになった。このように患者の情報源が広がり、2008年春以降は在宅移行の登録症例が月間平均3例から9例へと3倍に増えたという。

### 小規模MLで新人医師をサポート

2007年8～10月には、在宅移行する末期がん患者の在宅主治医となる新人医師をサポートするために、在宅副主治医3人、緩和ケア医1人、病院の主治医1人を含む6人の小規模MLを編成。65日間で、合計155通のメール(退院前42通、退院後113通)が交換され、退院支援や在宅医療について助言を行った(表)。

症例単位の小規模MLは、症例に関する細やかで具体的な相談に有用で、グループ診療で情報共有ができていく副主治医も経過がリアルタイムで把握できるなど利点が多いという。2008年1月以降に在宅移行した35例中10例で小規模MLが作成されている。

(表) 小規模MLの例(訪問日ごとの情報提供)

件名: [id154:0089] 9/24現在の状態(陰嚢水腫について)  
在宅主治医のAです。

足の腫れは、昨日はびっくりするくらい減ったそうですが、本日より再燃。新たに太腿付近の腫れと両側の陰嚢水腫も出現しています。陰嚢水腫もリンパの灌流障害による症状と考えていいでしょうか？

[id154:0092] Re: 9/24現在の状態

S病院主治医のEです。

陰嚢の浮腫ですが、下肢の浮腫と同様のメカニズムと思います。傍大動脈以下のリンパ節転移の方に尿路がんでよく見られます。なかなか対処法がなくて難しい問題です。陰嚢皮膚の擦過傷からの感染に注意されてください。